

博士課程教育リーディングプログラム
平成23年度採択プログラム中間評価
アンケート調査結果

調査結果報告

平成27年3月

独立行政法人日本学術振興会
博士課程教育リーディングプログラム委員会事務局

まえがき

日本学術振興会は文部科学省からの委託を受けて「博士課程教育リーディングプログラム」の審査・評価等を実施している。平成 23 年度においては、各大学からの申請を審査し、20 プログラムを採択した。当該プログラムが 4 年目となる平成 26 年度の中間評価において、各プログラムにおける進捗状況を客観的に評価するための評価資料として、各プログラムに選抜された学生と、プログラム担当者に対して平成 26 年 5 月から 6 月にかけてアンケート調査を行った。本報告書はその概要を示すものである。

参考：実施概要

アンケート実施期間：平成 26 年 5 月 7 日（水）～6 月 4 日（水）*

* 5 月 28 日（水）締切を 6 月 4 日（水）まで延長して実施

アンケート対象学生：

1. 抽出条件

採択プログラムに選抜された学生のうち、平成 25 年度末までにプログラムに入学（編入も含む）した学生で、且つ現在（アンケート実施時点）も在籍している全学生

2. 対象者数

959 名

3. 回答者数

867 名（回答率 90.4%）

アンケート対象プログラム担当者：

1. 条件

平成 26 年 4 月 1 日現在の全プログラム担当者（ただし、同日付けで新たに担当者となった者を除く）のうち 3 割程度（対象者は博士課程教育リーディングプログラム事務局にて無作為に抽出）

2. 対象者数

264 名

3. 回答者数

212 名（回答率 80.3%）

目次

まえがき	1
目次	2
第1部 学生アンケート調査結果	3
1. プログラムで受けた指導（問6）	3
2. 環境の整備とプログラムでの経験（問7）	4
3. 身に付いた能力（問8）	6
4. プログラムへの評価（問9）	7
5. 修了後の進路（問10）	8
6. 学生の属性（問2, 3, 4, 5）	10
第2部 プログラム担当者アンケート調査結果	12
1. プログラムへの関与（問2）	12
2. 指導の内容（問5）	12
3. 実施されたプログラムと整備された環境（問6）	13
4. プログラムの有効性（問7）	15
5. 運営・管理（問8）	15
6. プログラムに対する印象（問9）	16
7. 指導・支援の改善のための評価等の実施（問10）	16
8. 参加教員の属性（問2, 3, 4）	18
附A サンプルと回答者数	20
附B 学生アンケート調査と単純集計結果	21
附C プログラム担当者アンケート調査と単純集計結果	29

第1部 学生アンケート調査結果

1. プログラムで受けた指導（問6）

学生にこのプログラムについて、どのような指導をどの程度受けたか、また受けた指導は、それが有効であったか、を聞いている。

指導の内容

プログラムで受けた指導を内容別に集計した（図1）。ほとんどの学生が「主専攻以外の分野の授業の履修」や、「指導教員以外の教員からの指導」を受けている。

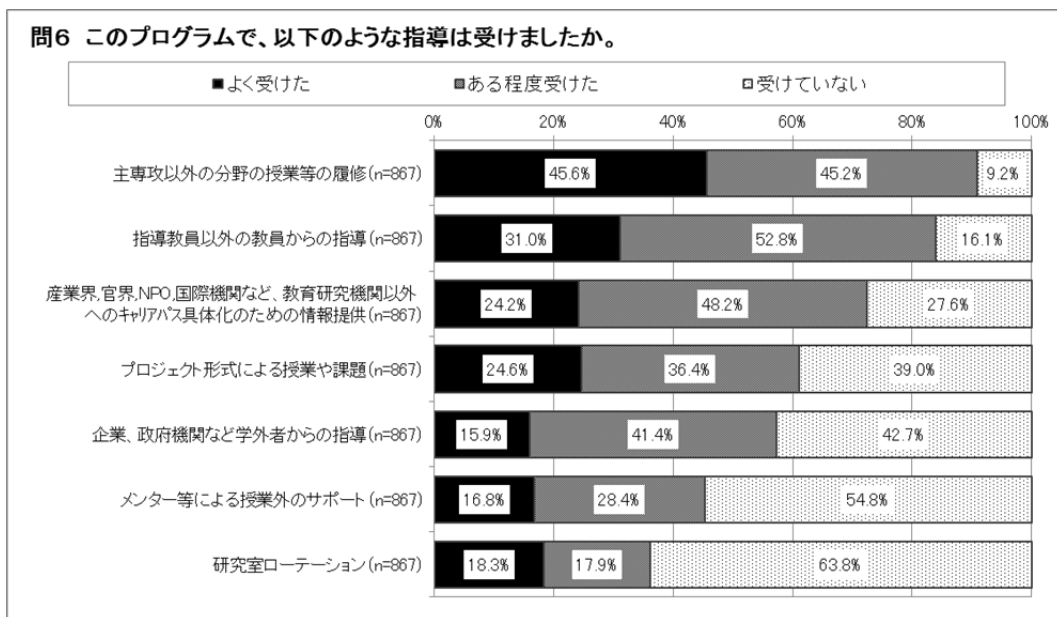


図1 プログラムで受けた指導（n=867）

受けた指導の有効性

上記で各指導等を「受けた」または「ある程度受けた」と選択をした学生を対象に、それが有効であったと感じるかを内容別に集計した（図2）。いずれの項目についても半数前後が「有効」と回答しており、「ある程度有効」を合わせると9割前後が各指導等を有効と捉えている。

また、「研究室ローテーション」を経験した学生は他の指導に比べて少ないが、「有効」と捉えている学生の割合は各指導の中で最も高い。

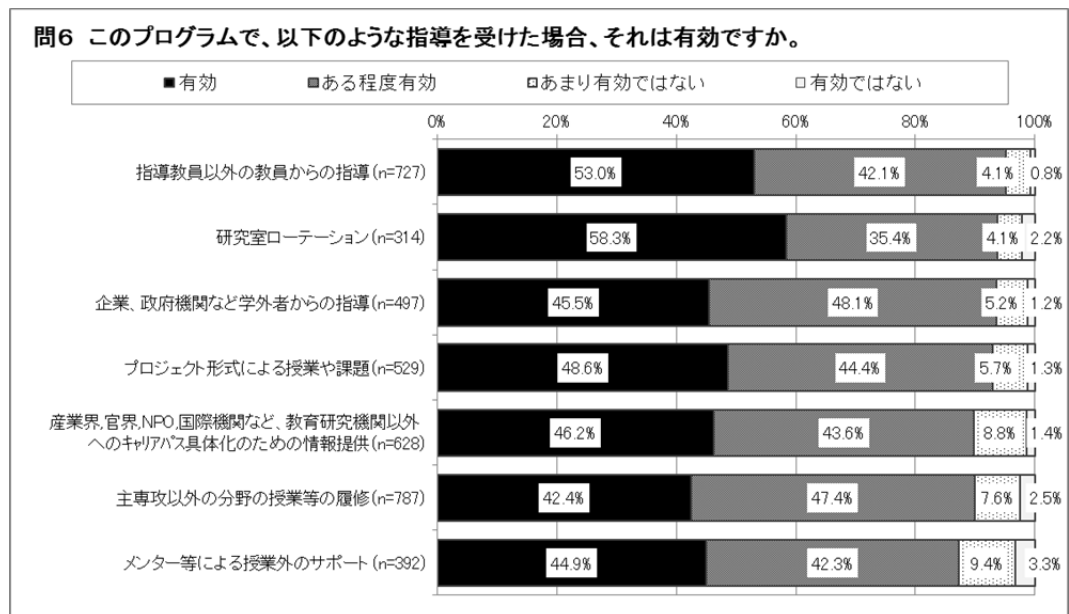


図2 指導を受けた場合の有効性

2. 環境の整備とプログラムでの経験 (問7)

学生に研究やプログラムの活動に専念するためにどのような環境が整備され経験しているか (図3)、それが有効に機能しているか (図4)、またプログラムで用意された活動に参加したか (図5)、それが有効に機能しているか (図6) について聞いている。

プログラムで整備された環境

「奨励金等大学からの金銭的支援」についてはほぼ全ての学生が「十分にされている」または「ある程度されている」と感じており、またその有効性を高く評価している。

また「異分野の学生間で切磋琢磨できる環境」や、「外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会」の整備については2割程度の学生が不十分と回答しているが、それらが有効に機能していると積極的に評価している学生は、それぞれ4割を超え、整備が「十分にされている」と回答した学生の割合を上回っており、各環境が肯定的に捉えられていることがわかる。

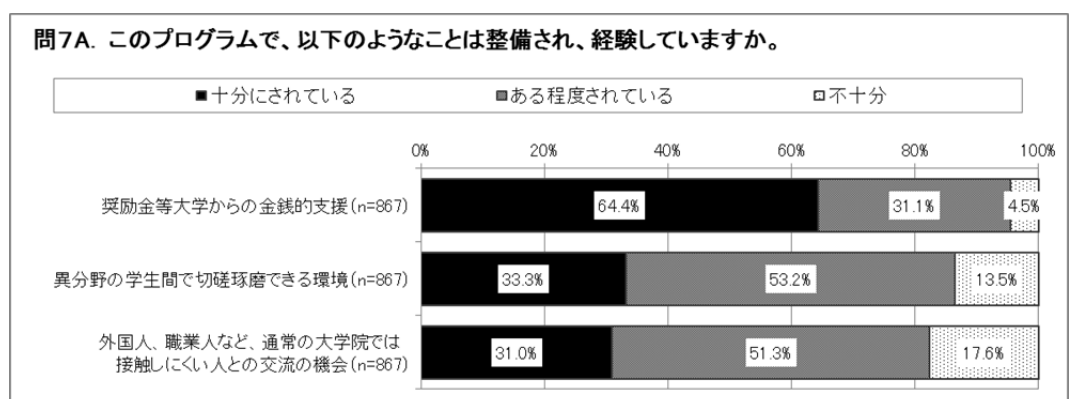


図3 プログラムで整備された環境 (n=867)

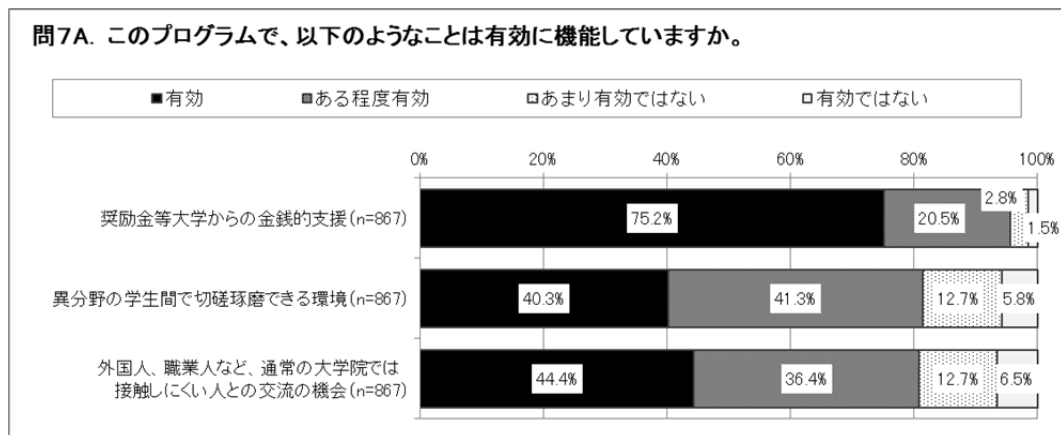


図4 整備された環境の有効性 (n=867)

プログラムでの経験

プログラムでの留学を経験またはこれから経験予定の学生は6割程度だが、インターンシップについては国内、海外とも予定を含めて半数未満に留まっている。

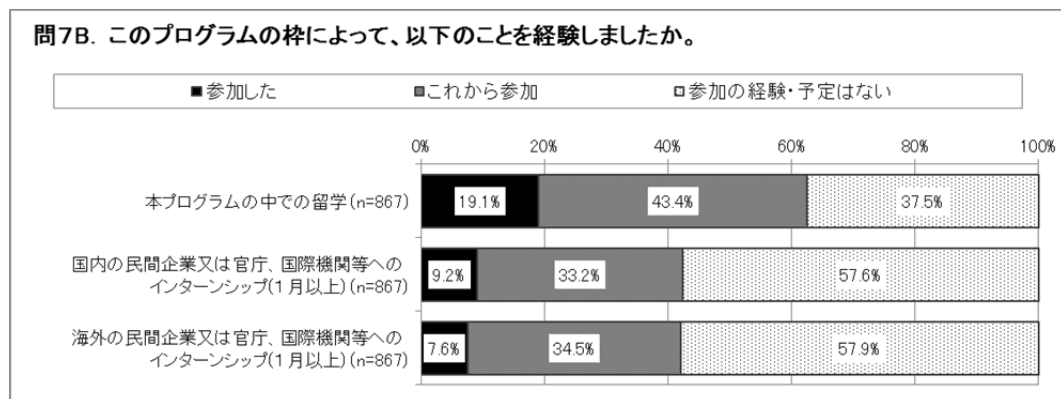


図5 プログラムでの経験 (n=867)

経験の有効性

上記の経験を「参加した」と回答した学生に対してその有効性について聞いている。各経験をした学生についてはいずれにおいても「有効」「ある程度有効」とほぼ全ての学生が回答しており、特に留学や海外のインターンシップという海外の経験についてはほとんどの学生が「有効」と回答している。

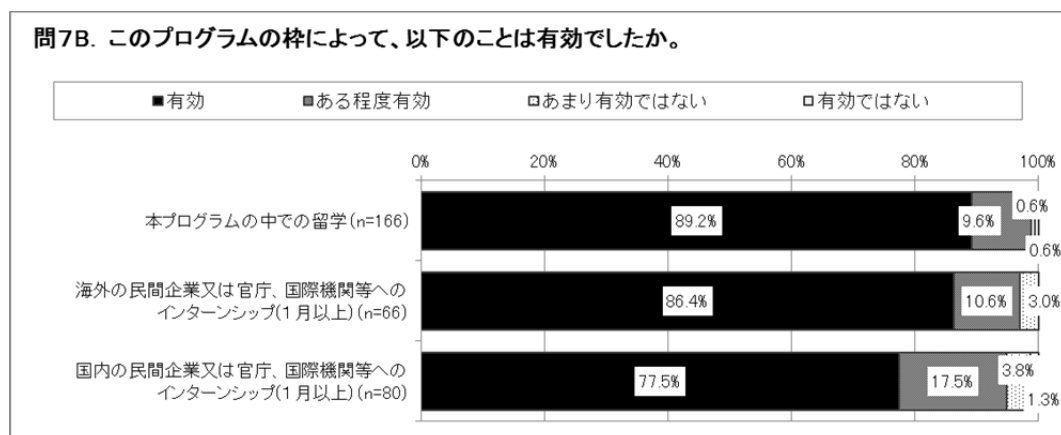


図6 プログラムでの経験の有効性

3. 身に付いた能力（問8）

学生にプログラムに参画することにより身に付いた能力（図7）、またそれがどのような活動によって身に付いたかを聞いている（図8、図9）。

身に付いた能力

「専門以外の分野の幅広い知識」が身に付いたとする学生が最も多く、「ある程度身に付いた」と回答した学生を含めると、8割を超える学生が身に付いたと感じている。一方で、各項目において「非常に身に付いた」を選択した学生はそれぞれ2割から3割程度に留まっている。

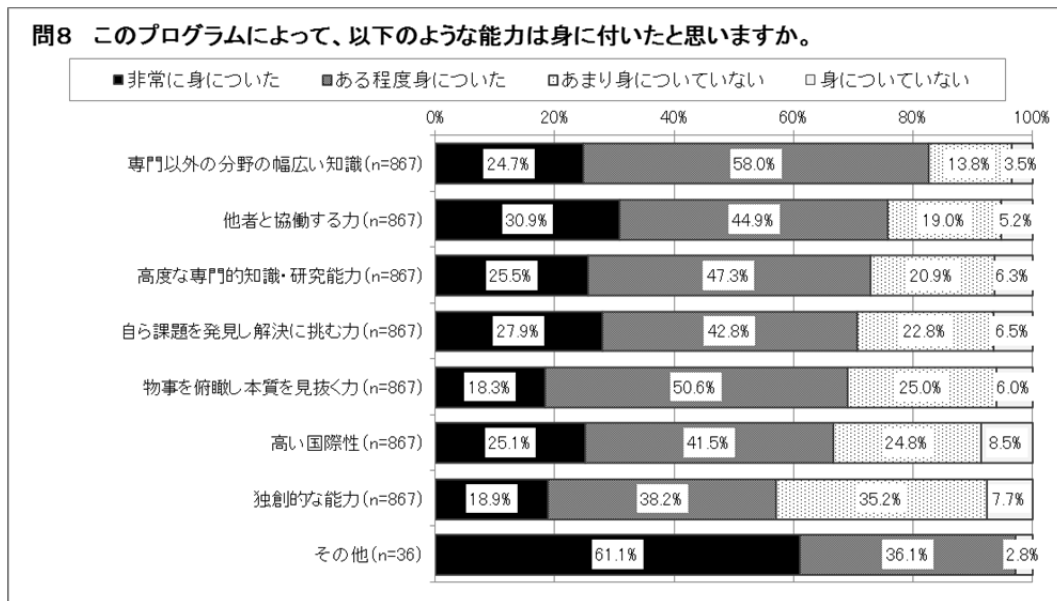


図7 プログラムによって身に付いた能力 (n=867)

能力を身に付けるために寄与したプログラムの活動

上記の身に付いた能力のうち、「非常に身に付いた」「ある程度身に付いた」を選択した学生が最も多い「専門以外の分野の幅広い知識」については、身に付けるための寄与したプログラムの活動として「主専攻以外の分野の授業等の履修」を半数以上の学生が挙げ、次いで「指導教員以外の教員からの指導」を選択した学生が多い。

また「高い国際性」が身に付いた場合に寄与した活動として最も多く挙げられたものは「外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会」である一方、「本プログラムの中での留学」を経験した人数は166人、「海外の民間企業又は官庁、国際機関等へのインターンシップ（1月以上）」を経験した人数は66人である中（図6）、「高い国際性」を身に付けるために寄与した活動としてこれらを選択した学生はそれぞれ147人、59人のほり、留学や海外でのインターンシップを経験した学生のほぼ全員がそれらが「高い国際性」を身に付けることに寄与したと考えている。

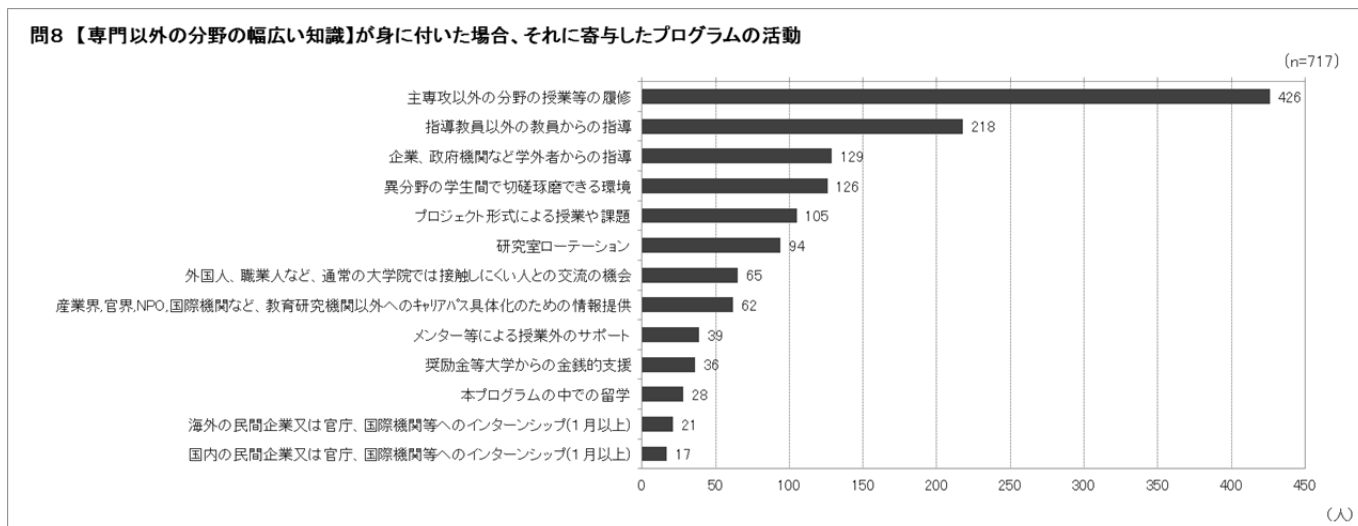


図8 「専門以外の分野の幅広い知識」を身に付けるのに寄与したプログラムの活動 (n=717)

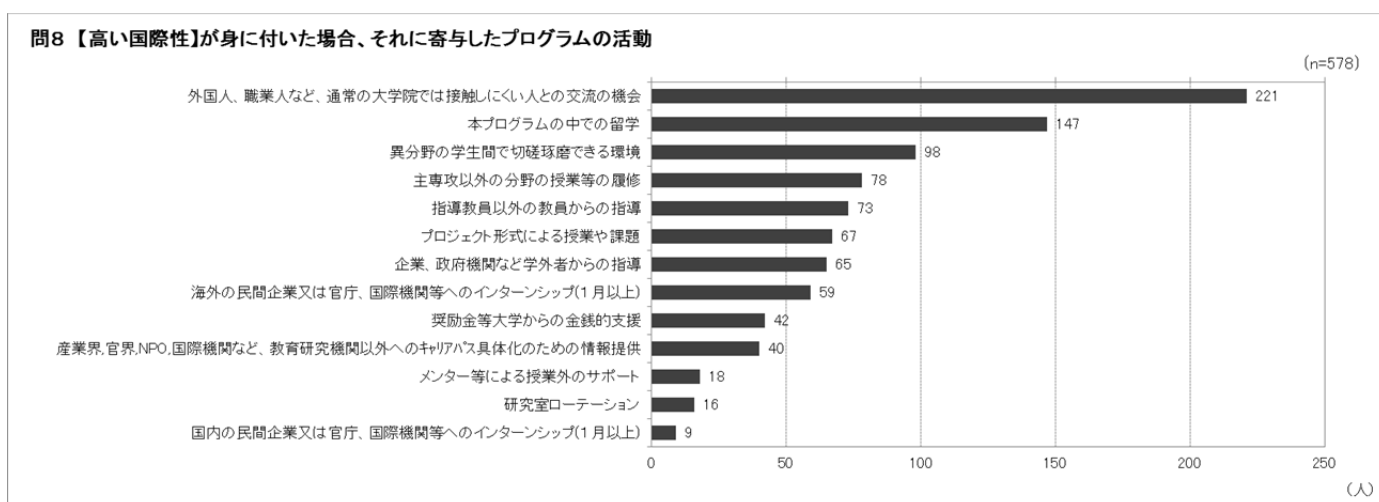


図9 「高い国際性」を身に付けるのに寄与したプログラムの活動 (n=578)

4. プログラムへの評価 (問9)

学生にプログラムに実際に参加している教員や、プログラムに参加していない周囲の教員等のプログラムへの理解や、プログラムそのものに対する印象を聞いている (図10)。

「学術研究だけでなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す可能性が大きい」という点については、8割程度の学生が「非常にそう思う」または「そう思う」と回答している。教員間の意識の共有については「プログラムに参加していない教員等はプログラムの目的を理解し、あなたがプログラムに参加することに協力的である」という点については8割を超える学生が「非常にそう思う」または「そう思う」と回答している一方、「プログラムに参加する教員の間でプログラムについての理解が共有されている」については4人に1人が「そう思わない」または「全くそう思わない」と回答しており、「非常にそう思う」と回答した学生も2割に留まっている。学内全体への理解の共有については一定の進捗が見られるものの、プログラムに参加する教員間での理解の共有については更に一層の努力が必要と考えられる。

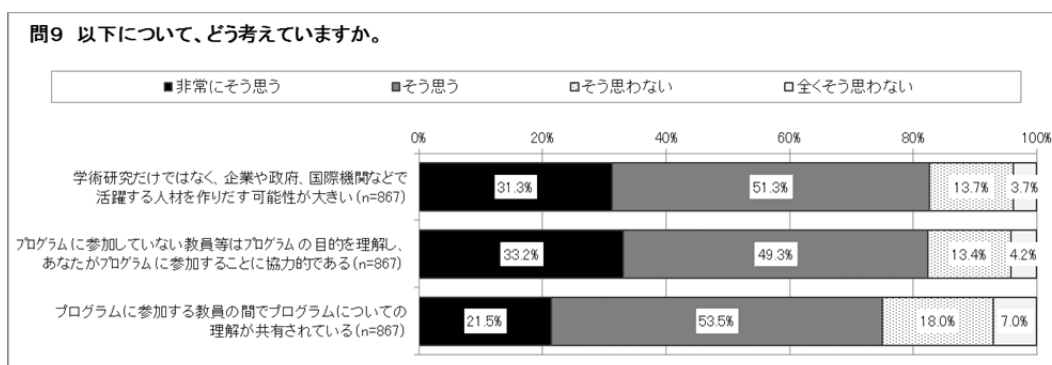


図 10 プログラムへの評価 (n=867)

5. 修了後の進路 (問 10)

学生の進路について、入学時 (図 1 1) とアンケート回答時点 (現在) (図 1 2) の希望について聞いている。

入学時、アンケート回答時点での修了後の進路の希望としてはいずれも「大学 (海外を含む) に研究者として就職」を選択した学生が最も多い。ただし、アンケート回答時点においては「大学 (海外を含む) に研究者として就職」および「医師、弁護士などの専門職」を希望する学生は大学院入学時より若干減少する一方、民間企業をはじめとする大学以外での研究者を希望する学生や、国際機関、官公庁、企業など、研究職以外の進路を希望する学生は増加しており、プログラムに参画することによって学生が多様な進路に目を向けるようになったことがわかる。

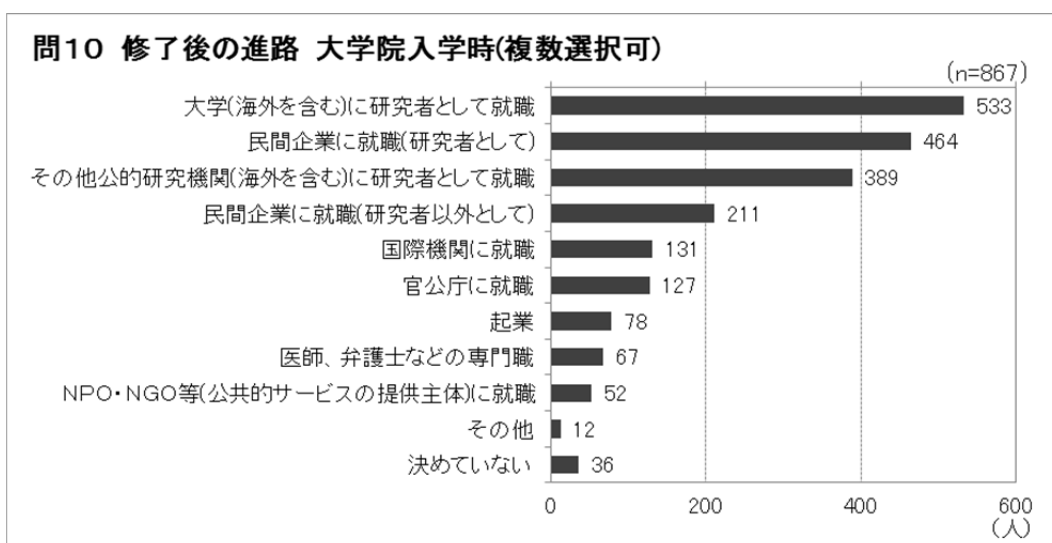


図 11 大学院入学時の修了後の進路の希望 (n=867)

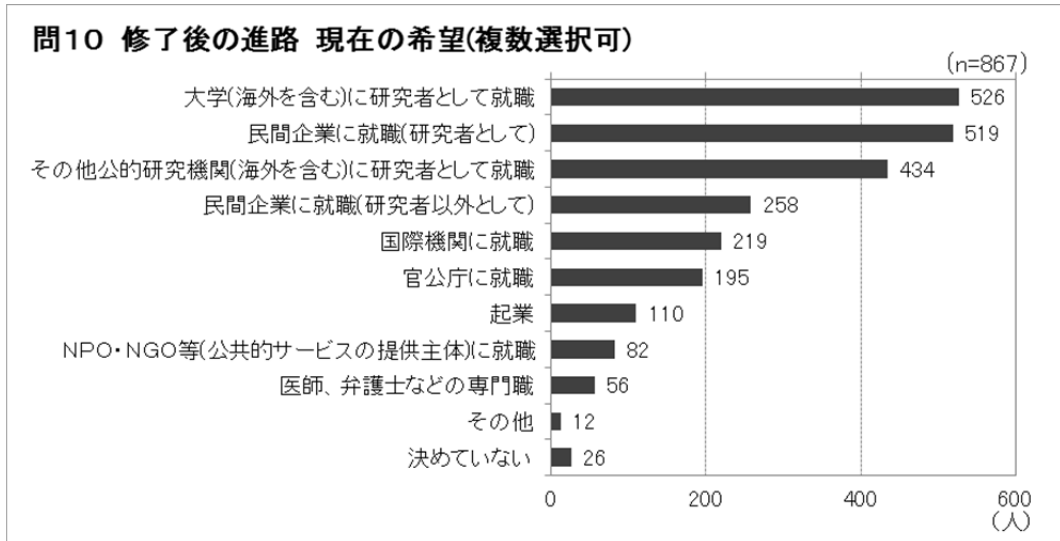
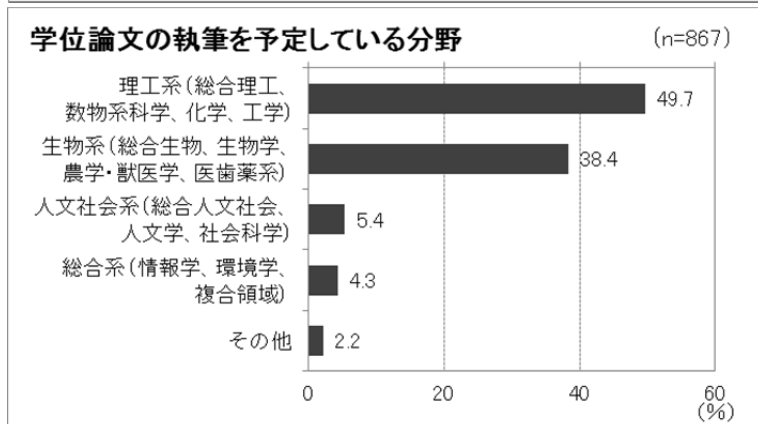
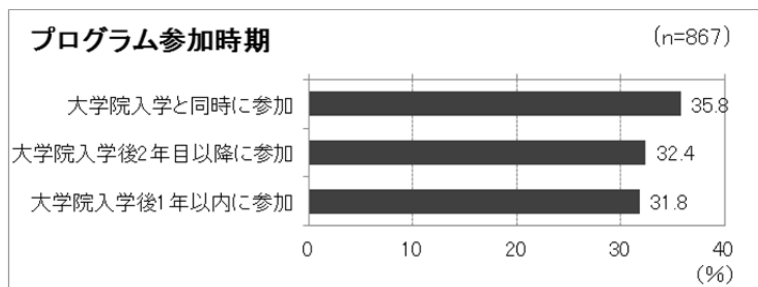
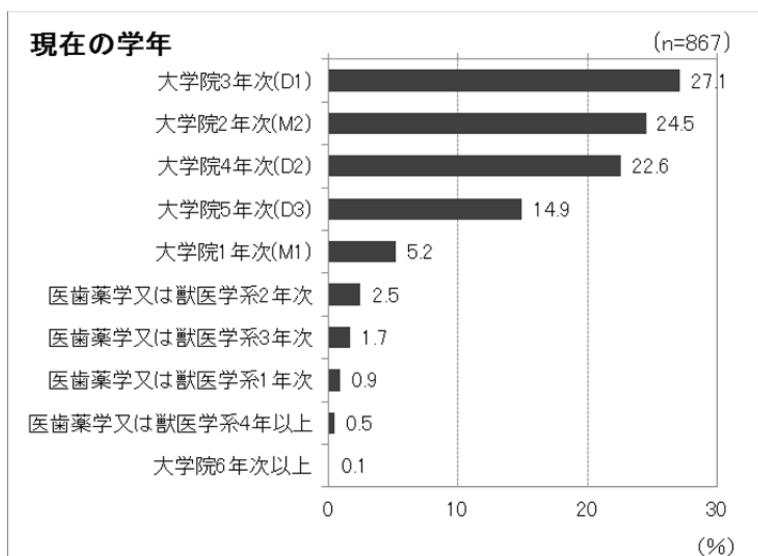
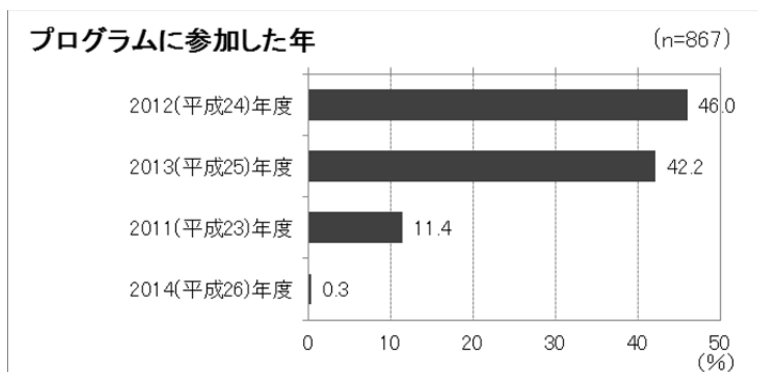
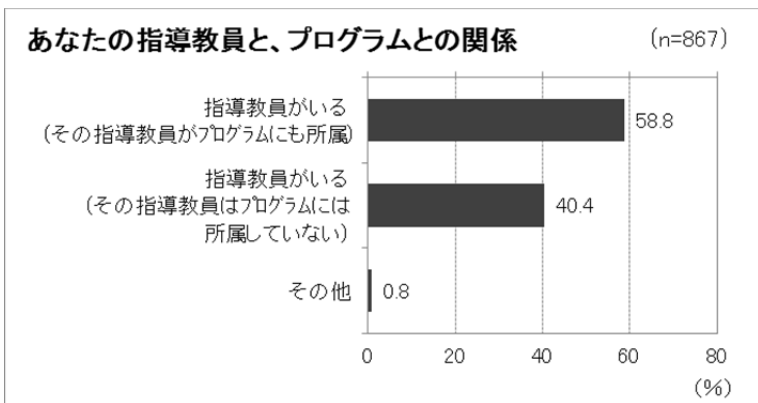
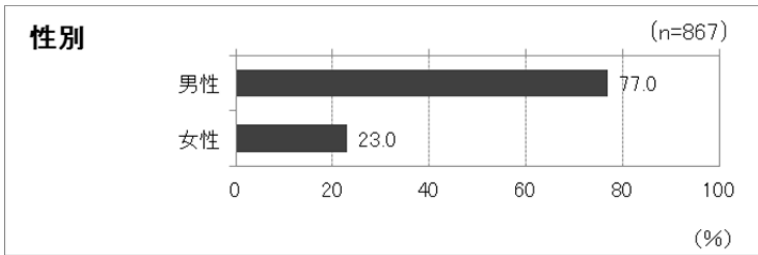
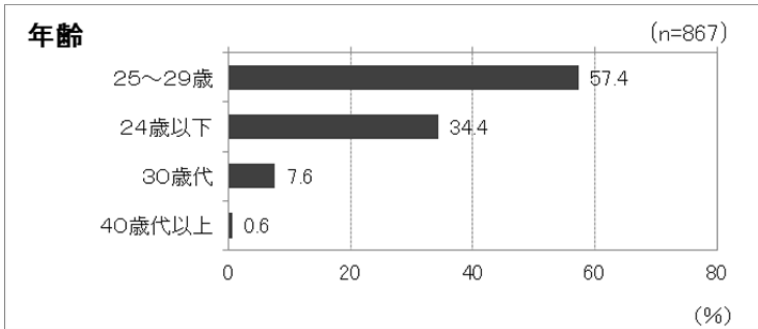
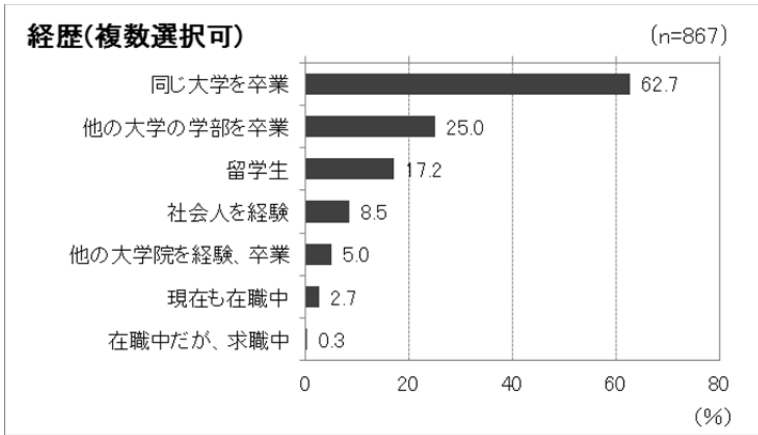


図 12 アンケート回答時点での修了後の進路の希望 (n=867)

6. 学生の属性（問2，3，4，5）

本項目では、アンケートを回答した学生の属性について、各回答を選択した割合を掲載する。





第2部 プログラム担当者アンケート調査結果

1. プログラムへの関与（問2）

学位プログラムに属する学生の研究指導、学位審査等の質保証を担当し、あるいは履修支援、キャリア形成などを総括しプログラムの実施を責任ある立場で主体的に担う常勤または非常勤の者（以下、プログラム担当者）に対し、本事業への申請時に想定されていたエフォートと、平成25年度の実績としてのエフォートを聞いている（図13）。

いずれも半数近くが1割未満であり、1割以上2割未満との合計が8割を超えている。

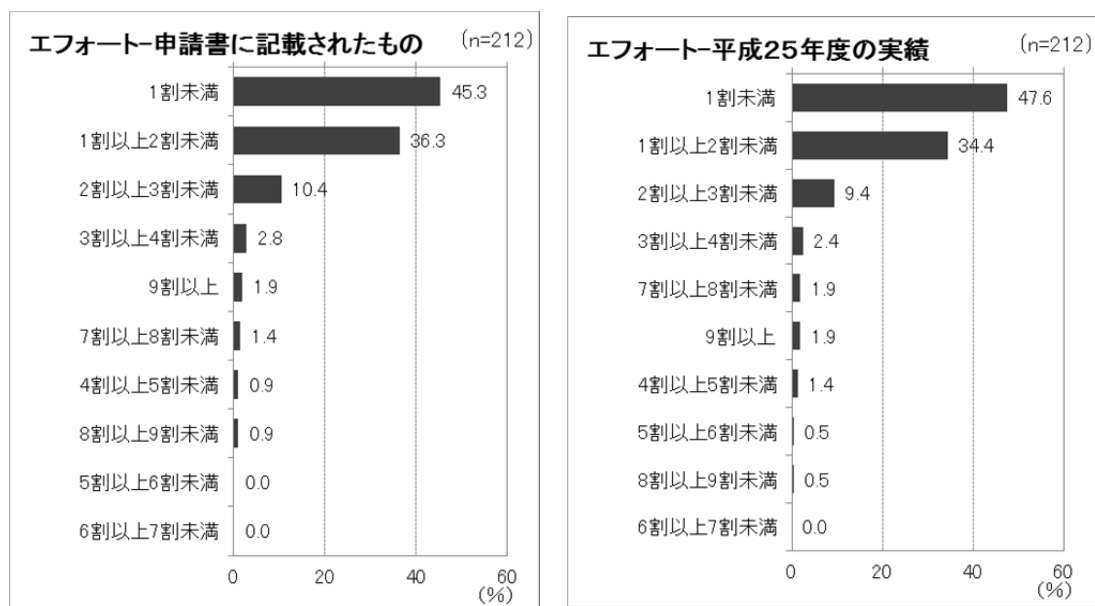


図13 申請時の想定と平成25年度実績のエフォート (n=212)

2. 指導の内容（問5）

プログラム担当者に対し、どのような指導を行っているか（図14）、また行っている場合はその有効性について聞いている（図15）。

行っている指導

回答したプログラム担当者のうち、6割前後が「主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等」や「指導学生以外の学生への指導」を行っている。なお、前述の2項目を除き半数以上が「行っていない」を選択しているが、本調査対象となったプログラム担当者は企業等の学外のプログラム担当者などが含まれており、必ずしも学生を受け入れることが可能な研究室を持っている教員や学生を直接的に指導する教員のみを対象としてはいない点について留意が必要である。

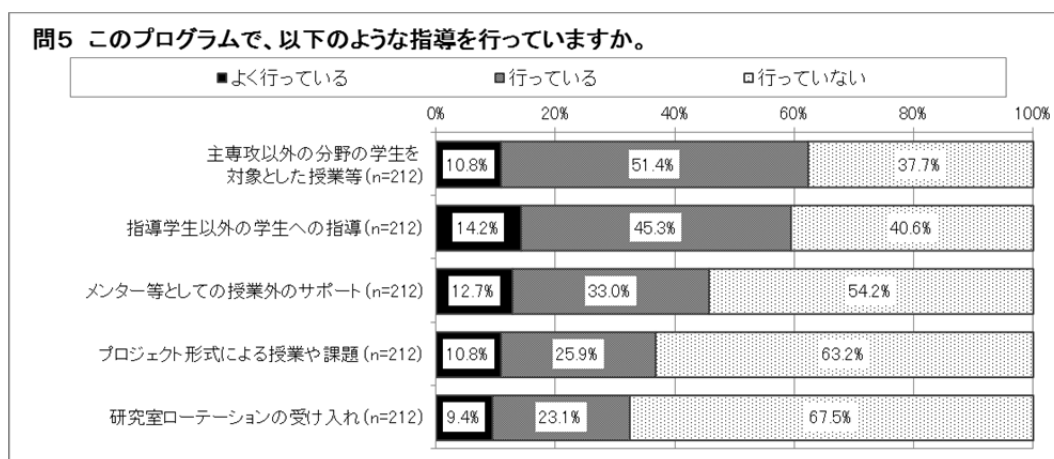


図 14 プログラムで担当している指導等 (n=212)

指導の有効性

上記の指導を「よく行っている」「行っている」と回答したプログラム担当者に対してその有効性について聞いている。

いずれの項目についても半数前後のプログラム担当者が「有効」と回答しており、「ある程度有効」と合わせると、これらの指導を行ったほぼ全てのプログラム担当者がこれらの指導を有効と考えている。

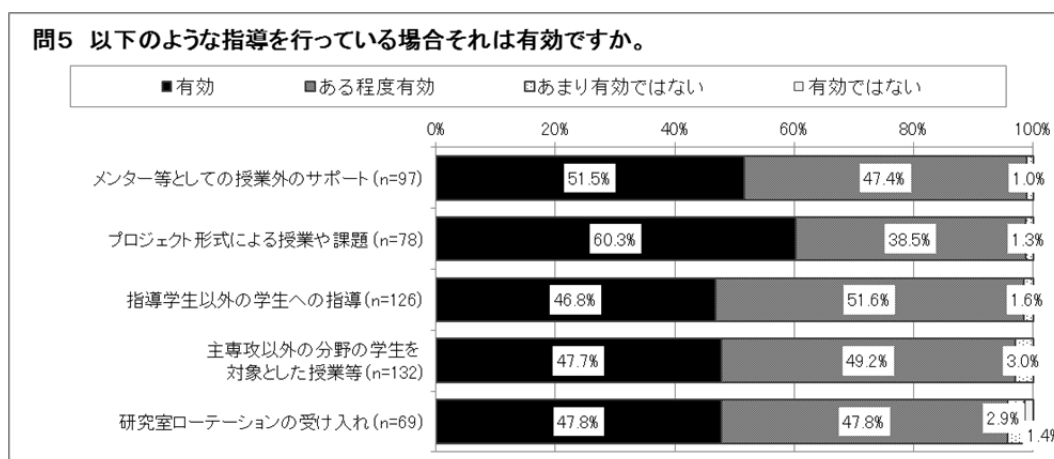


図 15 指導の有効性

3. 実施されたプログラムと整備された環境 (問6)

本プログラム内で学生のために実施されたプログラムや整備された環境について、それが十分実施(整備)されていると感じているか(図16)、また「分からない」以外を選択した場合にはそれが有効と考えているかについて聞いている(図17)。

プログラムの実施及び環境の整備状況

回答したプログラム担当者のうち半数以上が「外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会」や「異分野の学生間で切磋琢磨できる環境」、「奨励金等大学からの金銭的支援」について「十分にされている」と感じており、これらについては「ある程度されている」と回答した者を含めると9割程度が機会や環境が整備されていると回答した。その一方、「本プログラムの中での留学」

やインターンシップといった学外での活動については概ね5人に1人が「分からない」を選択している。

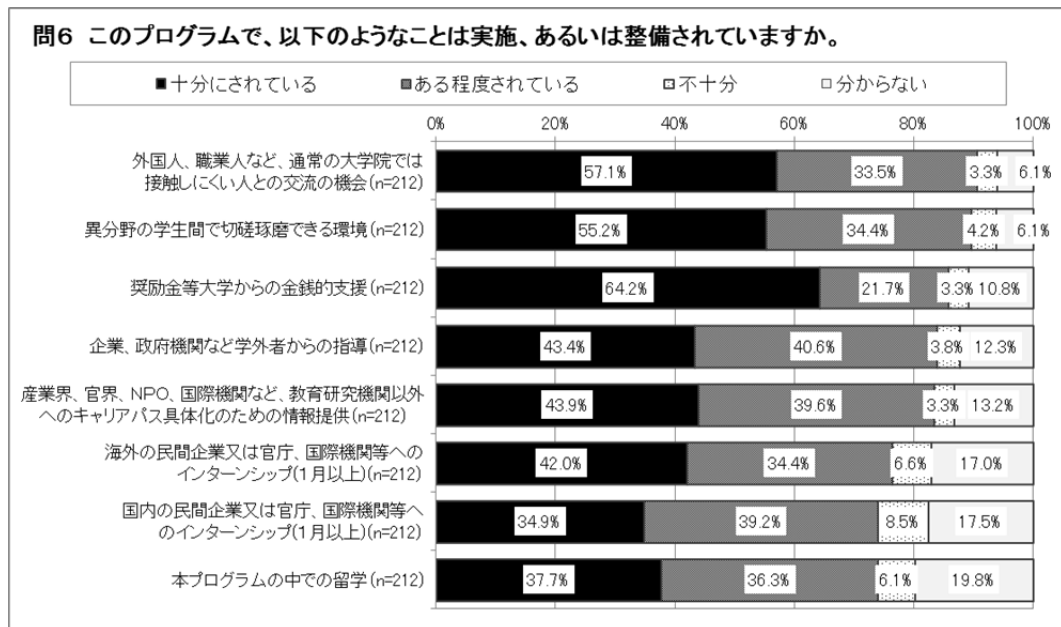


図 16 プログラムの実施や環境の整備状況 (n=212)

実施されたプログラムと整備された環境の有効性

上記のプログラムや環境についてそれぞれ「分からない」以外を選択した場合にその有効性を聞いている。特に「奨励金等大学からの金銭的支援」については「有効」を選択した者が7割を超え、学生が個々の学習、研究等に専念できる環境を担保するための金銭的な支援を重要と考えていることがわかる。また「外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会」については「有効」または「ある程度有効」と回答した者の割合が最も高い。

いずれの取組についても半数を超えるプログラム担当者が「有効」と考えており、「ある程度有効」と合わせるとほぼ全てのプログラム担当者がこれらの取組を有効と考えている。

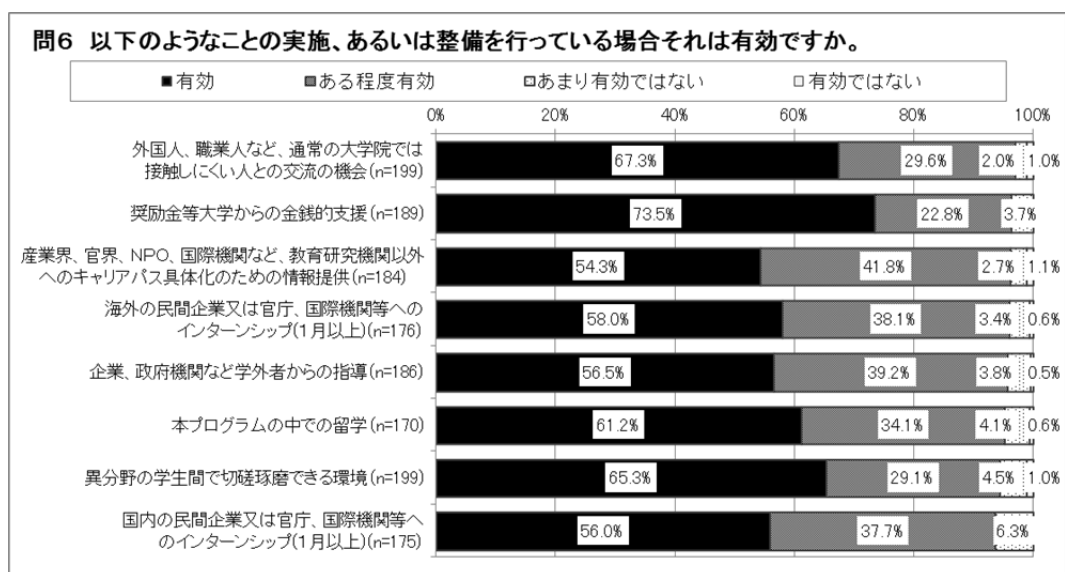


図 17 実施されたプログラムと整備された環境の有効性

4. プログラムの有効性（問7）

各プログラムに参加することにより、学生に各能力を身に付けさせることができるか、その有効性を聞いている（図18）。

「他者と協働する力」や「高い国際性」、「専門以外の分野の幅広い知識」を身に付けるために本プログラムは「非常に有効」と考えるプログラム担当者が多く、それ以外の能力についても身に付けるために有効なプログラムであるとほぼ全てのプログラム担当者が考えている。

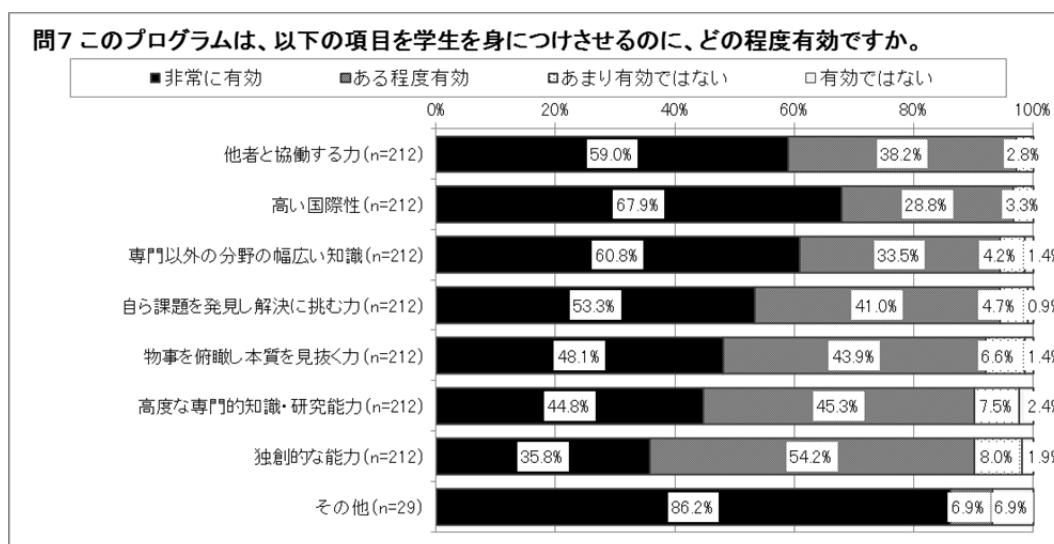


図18 学生へ能力を身に付けさせるためのプログラムの有効性 (n=212)

5. 運営・管理（問8）

プログラムの運営・管理の面についての印象をプログラム担当者へ聞いている（図19）。

回答したプログラム担当者のほぼ全てが「学内外へのプログラムの内容や成果の広報が積極的に行われている」と考えている一方で、4人に1人は「学長のリーダーシップが発揮されている」とは考えていない。

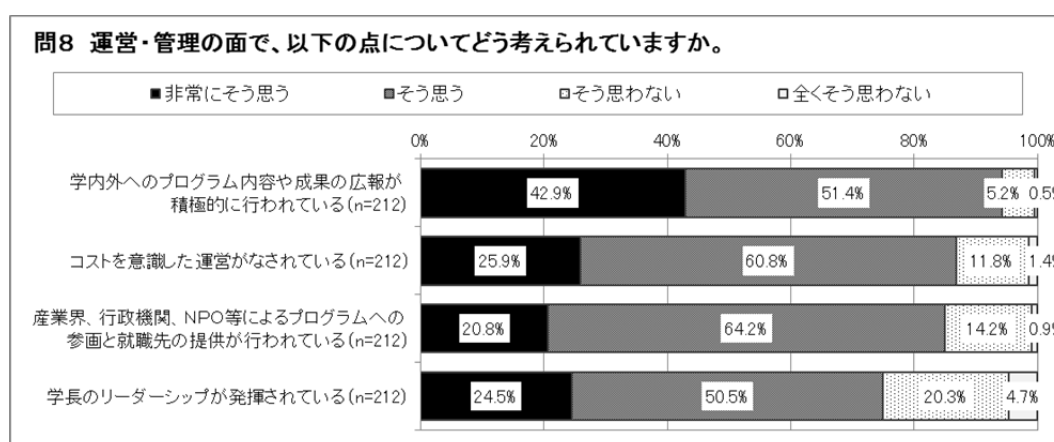


図19 運営・管理の面での印象 (n=212)

6. プログラムに対する印象（問9）

プログラムに参加している学生やプログラムの将来展望などを含めた、プログラムの印象を聞いている（図20）。

「大学の執行部が、プログラムの目的を理解し、協力的である」、「学生はプログラムの意図を良く理解している」についてはほとんど全ての者が「非常にそう思う」または「そう思う」と回答している。また「優秀な学生が多数入学している」についてはプログラム担当者のうち半数近くが「非常にそう思う」と感じている。

その一方で「このプログラムが補助期間終了後も大学の独自財源により持続的に運営される見通しがある」については4割近くの者が「そう思わない」または「全くそう思わない」と回答しており、プログラムの継続性については疑問を感じているプログラム担当者が少なくない。

また、多くのプログラム担当者が「優秀な学生が多数入学している」と考える一方、「今後優秀な学生をより多く獲得できる」では肯定的な回答する者はそれに比して少なく、「このプログラムによって、大学院制度の改善に大きな示唆が得られている」、「学生にとって、将来の進路が明確になっている」なども2割前後の者が「そう思わない」または「全くそう思わない」を選択しており、総じて現状に対しては前向きな印象を持ちつつ、それと比較して将来への期待については不安視する者が多いと考えられる。

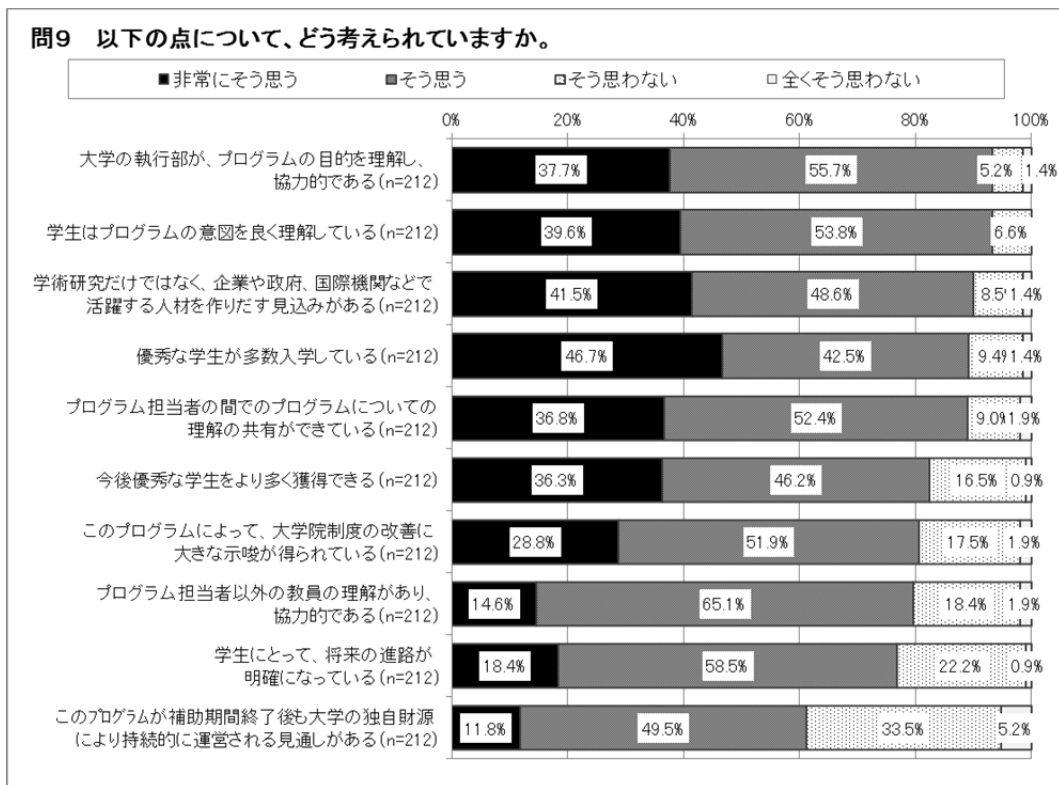


図20 プログラムに対する印象 (n=212)

7. 指導・支援の改善のための評価等の実施（問10）

プログラムで担当する指導・支援方法の改善のため、学生等による評価やアンケートを行っているか聞いている（図21）。

6割程度のプログラム担当者が改善に向けた取組を実施している。

問10-1 このプログラムにおいてあなたが担当する指導・支援方法の改善のため、学生等による評価やアンケートを行っていますか。 (n=212)

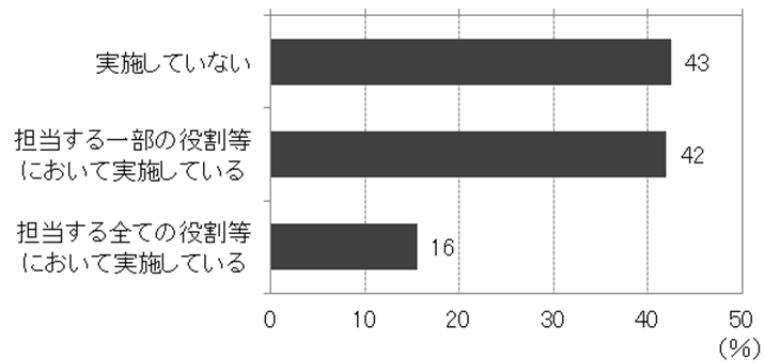
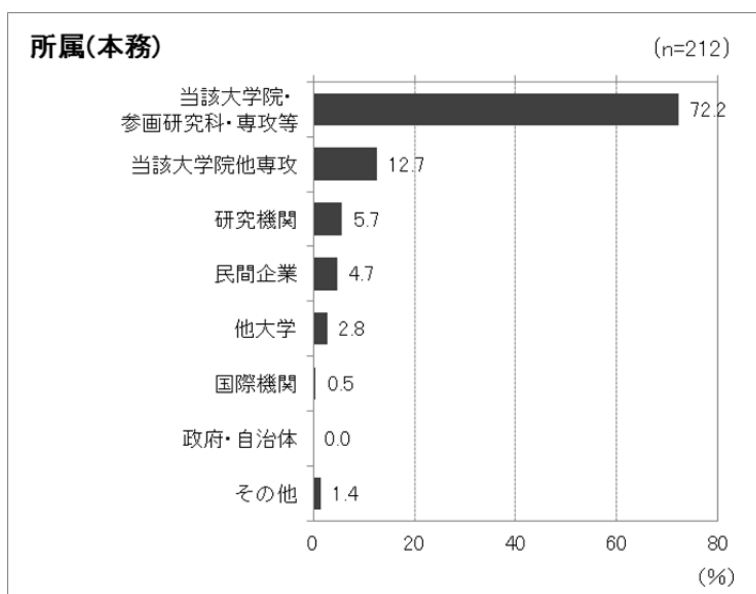
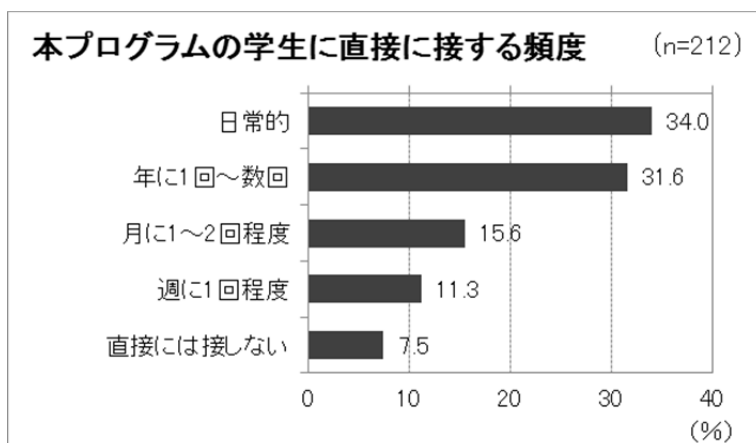
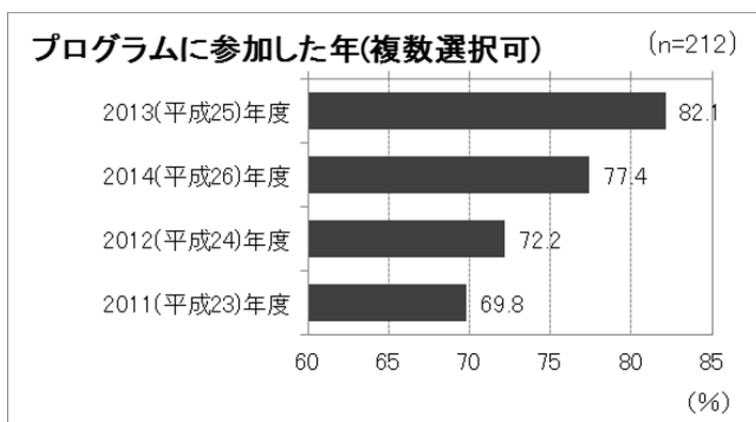


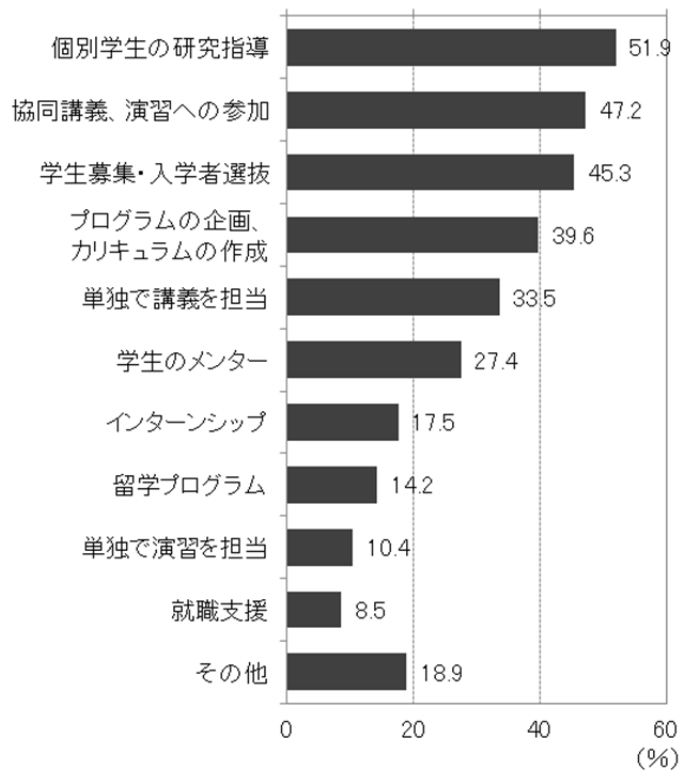
図 21 指導・支援の改善のための評価等の実施 (n=212)

8. 参加教員の属性（問2，3，4）

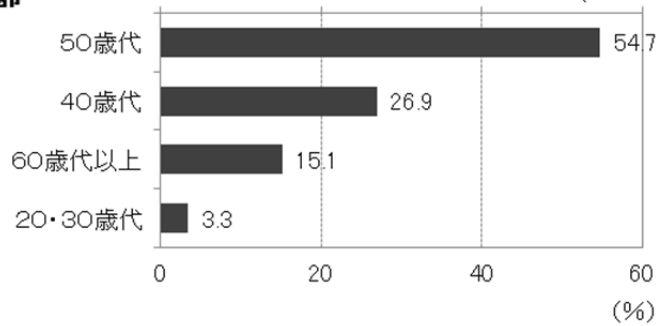
本項目ではアンケートに回答したプログラム担当者の属性について、各回答を選択した割合を掲載する。



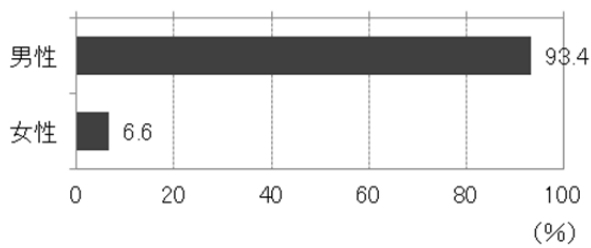
プログラム内の担当(複数選択可) (n=212)



年齢 (n=212)



性別 (n=212)



附A サンプルと回答者数

類型	大学名	プログラム名	学生			プログラム担当者			
			対象者数	回答者数	回答率	対象者数	回答者数	回答率	
オールラウンド型	A01	京都大学	京都大学大学院思修館	15	13	86.7%	13	8	61.5%
	A02	大阪大学	超域イノベーション博士課程プログラム	28	25	89.3%	22	20	90.9%
	A03	慶應義塾大学	超成熟社会発展のサイエンス	19	19	100.0%	12	11	91.7%
複合領域型 (環境)	B01	東京大学	サステイナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム	42	21	50.0%	8	5	62.5%
	B02	東京工業大学	環境エネルギー協創教育院	64	59	92.2%	14	13	92.9%
	B03	名古屋大学	グリーン自然科学国際教育研究プログラム	195	181	92.8%	18	18	100.0%
	B04	慶應義塾大学	グローバル環境システムリーダープログラム	16	15	93.8%	10	8	80.0%
複合領域型 (生命健康)	C01	筑波大学	ヒューマンバイオロジー学位プログラム	34	26	76.5%	17	10	58.8%
	C02	東京大学	ライフイノベーションを先導するリーダー養成プログラム	131	123	93.9%	9	7	77.8%
	C03	東京工業大学	情報生命博士教育院	56	49	87.5%	21	17	81.0%
	C04	大阪大学	生体統御ネットワーク医学教育プログラム	28	27	96.4%	19	16	84.2%
複合領域型 (安全安心)	D01	京都大学	グローバル生存学大学院連携プログラム	34	32	94.1%	17	12	70.6%
複合領域型 (横断的テーマ)	E01	東京大学	フotonサイエンス・リーディング大学院	164	158	96.3%	12	10	83.3%
	E02	広島大学	放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム	19	18	94.7%	19	14	73.7%
オンリーワン型	F01	北海道大学	OneHealthに貢献する獣医学グローバルリーダー育成プログラム	38	32	84.2%	7	7	100.0%
	F02	群馬大学	重粒子線医学工学グローバルリーダー養成プログラム	12	10	83.3%	13	12	92.3%
	F03	東京工業大学	グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェント養成	11	11	100.0%	7	5	71.4%
	F04	山梨大学	グリーンエネルギー変換工学	34	31	91.2%	8	6	75.0%
	F05	名古屋大学	法制度設計・国際的制度移植専門家の養成プログラム	11	9	81.8%	7	4	57.1%
	F06	兵庫県立大学	フotonサイエンスが拓く次世代ピコバイオロジー	8	8	100.0%	11	9	81.8%
平成23年度採択プログラム総計				959	867	90.4%	264	212	80.3%

注)

- ・学生の対象者には休学中の者を含む。
- ・プログラム担当者（プログラム責任者、プログラムコーディネーターを除く）のうち3割程度を博士課程教育リーディングプログラム事務局により無作為に抽出し、回答の対象者とした。

附B 学生アンケート調査と単純集計結果

博士課程教育リーディングプログラム

学生アンケート調査

- この調査は博士課程教育リーディングプログラム（注）に採択されたプログラムに参加する皆さん（大学により各プログラムに選抜された学生）にご意見をうかがうものです。各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省の施策の検討の参考とします。
- いただいた回答はすべて統計的に処理され、個人についての情報が他の目的で使われることはありません。調査結果については、プログラムの改善に資するため、記入した個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合などの処理を行った上で、当該大学に対し評価終了後に情報提供を行うとともに、集計結果を個人等が特定されない範囲で公表することもあります。
- この調査の実施は、各大学の協力のもとに、文部科学省の指導の下、独立行政法人日本学術振興会が Transbird 株式会社に委託して行います。

注 <博士課程教育リーディングプログラムとは>

優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院（リーディング大学院）の形成を推進する事業です。

- 回答は URL を通じてください → <http://www.tb-q.com/jsps/worksheet.php>
- **5月28日まで**にご回答ください
- 本アンケートに関するお問い合わせ先
Transbird 株式会社（トランスバード株式会社）担当者：太田・大沼
Email : jsps-q@transbird.com

参加されているプログラムと、御自身についてうかがいます

問1 参加している大学・プログラム名及び専攻名。大学・プログラム名は下のボタンをクリックして、該当するものをクリックしてください。専攻名は記述してください。

全体

専攻名

（自由記述）

問2 プログラムとの関係（それぞれ一つを選択）

プログラムに参加した年	1. 2011（平成23）年度	2. 2012（平成24）年度	3. 2013（平成25）年度	4. 2014（平成26）年度
	99人（11.4%）	399人（46%）	366人（42.2%）	3人（0.3%）

現在の学年	1. 大学院1年次（M1）	2. 大学院2年次（M2）	3. 大学院3年次（D1）	4. 大学院4年次（D2）	5. 大学院5年次（D3）
	45人（5.2%）	212人（24.5%）	235人（27.1%）	196人（22.6%）	129人（14.9%）
	6. 大学院6年次以上	7. 医歯薬学又は獣医学系1年次	8. 医歯薬学又は獣医学系2年次	9. 医歯薬学又は獣医学系3年次	10. 医歯薬学又は獣医学系4年以上
	1人（0.1%）	8人（0.9%）	22人（2.5%）	15人（1.7%）	4人（0.5%）

入学時からこのプログラムに参加したか	1. 大学院入学と同時に参加	2. 大学院入学後1年以内に参加	3. 大学院入学後2年目以降に参加
	310人（35.8%）	276人（31.8%）	281人（32.4%）

学位論文の執筆を予定している分野	1. 総合系（情報学、環境学、複合領域）	2. 人文社会系（総合人文社会、人文学、社会科学）	3. 理工系（総合理工、数物系科学、化学、工学）	4. 生物系（総合生物、生物学、農学・獣医学、医歯薬系）	5. ほか
	37人（4.3%）	47人（5.4%）	431人（49.7%）	333人（38.4%）	19人（2.2%）

5. ほか（自由記述）

問3 あなたの経歴についてあてはまるものすべてにチェックしてください

1	同じ大学を卒業	544人（62.7%）	5	社会人を経験	74人（8.5%）
2	留学生	149人（17.2%）	6	現在も在職中	23人（2.7%）
3	他の大学の学部を卒業	217人（25%）	7	在職中だが、求職中	3人（0.3%）
4	他の大学院を経験、卒業	43人（5%）			

問4 年齢、性別についてご記入ください。

年齢	1. 24歳以下	2. 25～29歳	3. 30歳代	4. 40歳代以上
	298人（34.4%）	498人（57.4%）	66人（7.6%）	5人（0.6%）

性別	1. 女性	2. 男性
	199人（23%）	668人（77%）

問5 あなたの指導教員（専門分野における研究指導を主に行う教員1名）と、プログラムとの関係（あてはまるものに○）

1	指導教員がいる — その指導教員がプログラムにも所属	510人（58.8%）
2	指導教員がいる — その指導教員はプログラムには所属していない	350人（40.4%）
3	それ以外	7人（0.8%）

3. それ以外（自由記述）

プログラムでの実施状況について感想をうかがいます

問6 このプログラムで、下のような指導を受けましたか。また受けた場合、それは有効ですか。

	よく受けたか			有効か				番号
	よく受けた	ある程度受けた	受けていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない	
指導教員以外の教員からの指導	269人 (31%)	458人 (52.8%)	140人 (16.1%)	385人 (53%)	306人 (42.1%)	30人 (4.1%)	6人 (0.8%)	①
企業、政府機関など学外者からの指導	138人 (15.9%)	359人 (41.4%)	370人 (42.7%)	226人 (45.5%)	239人 (48.1%)	26人 (5.2%)	6人 (1.2%)	②
主専攻以外の分野の授業等の履修	395人 (45.6%)	392人 (45.2%)	80人 (9.2%)	334人 (42.4%)	373人 (47.4%)	60人 (7.6%)	20人 (2.5%)	③
研究室ローテーション ※名称は問わない	159人 (18.3%)	155人 (17.9%)	553人 (63.8%)	183人 (58.3%)	111人 (35.4%)	13人 (4.1%)	7人 (2.2%)	④
プロジェクト形式による授業や課題	213人 (24.6%)	316人 (36.4%)	338人 (39%)	257人 (48.6%)	235人 (44.4%)	30人 (5.7%)	7人 (1.3%)	⑤
メンター等による授業外のサポート	146人 (16.8%)	246人 (28.4%)	475人 (54.8%)	176人 (44.9%)	166人 (42.3%)	37人 (9.4%)	13人 (3.3%)	⑥
産業界、官界、NPO、国際機関など、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供例：産学共同研究、産業界等の講師を招いたセミナー等	210人 (24.2%)	418人 (48.2%)	239人 (27.6%)	290人 (46.2%)	274人 (43.6%)	55人 (8.8%)	9人 (1.4%)	⑦

上の理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

問7A. このプログラムで、下のようなことは整備され、経験していますか。またそれは有効に機能していますか。(それぞれ該当する回答をクリック)

	整備されている			有効か				番号
	十分に されている	ある程度 されている	不十分	有効	ある程度 有効	あまり有効 ではない	有効では ない	
奨励金等大学からの金銭的支援	558人 (64.4%)	270人 (31.1%)	39人 (4.5%)	652人 (75.2%)	178人 (20.5%)	24人 (2.8%)	13人 (1.5%)	⑧
異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 例：学生が交流するスペース、合同の セミナー等	289人 (33.3%)	461人 (53.2%)	117人 (13.5%)	349人 (40.3%)	358人 (41.3%)	110人 (12.7%)	50人 (5.8%)	⑨
外国人、職業人など、通常の大学院で は接触しにくい人との交流の機会	269人 (31%)	445人 (51.3%)	153人 (17.6%)	385人 (44.4%)	316人 (36.4%)	110人 (12.7%)	56人 (6.5%)	⑩

上の理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

問7B. このプログラムの枠によって、下のことを経験しましたか、またそれは有効でしたか。

	経験したか			有効か				番号
	参加した	これから 参加	参加の 経験・予定は ない	有効	ある程度 有効	あまり有効 ではない	有効では ない	
国内の民間企業又は官庁、国際機関等 へのインターンシップ（1月以上）	80人 (9.2%)	288人 (33.2%)	499人 (57.6%)	62人 (77.5%)	14人 (17.5%)	3人 (3.8%)	1人 (1.3%)	⑪
海外の民間企業又は官庁、国際機関等 へのインターンシップ（1月以上）	66人 (7.6%)	299人 (34.5%)	502人 (57.9%)	57人 (86.4%)	7人 (10.6%)	2人 (3%)	0人 (0%)	⑫
本プログラムの中での留学	166人 (19.1%)	376人 (43.4%)	325人 (37.5%)	148人 (89.2%)	16人 (9.6%)	1人 (0.6%)	1人 (0.6%)	⑬

上の理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

問8 このプログラムによって、下のような能力は身に着的いたと思いますか。また、身についた場合は問6～7Bのどの活動によって主に身についたと思いますか。(問5～7Bの該当する「番号」を入力してください。)

	非常に身に着的いた	ある程度身に着的いた	あまり身についていない	身についていない	身についた場合、それに寄与したプログラムの活動(該当する「番号」を入力)
高度な専門的知識・研究能力	221人 (25.5%)	410人 (47.3%)	181人 (20.9%)	55人 (6.3%)	
高い国際性	218人 (25.1%)	360人 (41.5%)	215人 (24.8%)	74人 (8.5%)	
専門以外の分野の幅広い知識	214人 (24.7%)	503人 (58%)	120人 (13.8%)	30人 (3.5%)	
物事を俯瞰し本質を見抜く力	159人 (18.3%)	439人 (50.6%)	217人 (25%)	52人 (6%)	
自ら課題を発見し解決に挑む力	242人 (27.9%)	371人 (42.8%)	198人 (22.8%)	56人 (6.5%)	
独創的な能力	164人 (18.9%)	331人 (38.2%)	305人 (35.2%)	67人 (7.7%)	
他者と協働する力	268人 (30.9%)	389人 (44.9%)	165人 (19%)	45人 (5.2%)	
その他(具体的に:)	22人 (61.1%)	13人 (36.1%)	0人 (0%)	1人 (2.8%)	



	① 指導教員以外の教員からの指導	② 企業、政府機関など学外者からの指導	③ 主専攻以外の分野の授業等の履修	④ 研究室ローテーション	⑤ プロジェクト形式による授業や課題	⑥ メンター等による授業外のサポート	⑦ 産業界、官界、NPO、国際機関など、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供	⑧ 奨励金等大学からの金銭的支援	⑨ 異分野の学生間で切磋琢磨できる環境	⑩ 外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会	⑪ 国内の民間企業又は官庁、国際機関等へのインターシップ(1月以上)	⑫ 海外の民間企業又は官庁、国際機関等へのインターシップ(1月以上)	⑬ 本プログラムの中での留学
高度な専門的知識・研究能力	323人	68人	188人	63人	65人	28人	14人	76人	64人	39人	17人	14人	58人
高い国際性	73人	65人	78人	16人	67人	18人	40人	42人	98人	221人	9人	59人	147人
専門以外の分野の幅広い知識	218人	129人	426人	94人	105人	39人	62人	36人	126人	65人	17人	21人	28人
物事を俯瞰し本質を見抜く力	215人	114人	203人	41人	142人	37人	50人	33人	95人	59人	13人	23人	29人
自ら課題を発見し解決に挑む力	212人	104人	134人	53人	172人	43人	42人	48人	91人	52人	20人	25人	46人
独創的な能力	172人	74人	125人	49人	111人	38人	30人	47人	101人	57人	13人	17人	46人
他者と協働する力	99人	58人	100人	56人	199人	29人	23人	31人	232人	104人	24人	38人	61人
その他	8人	6人	9人	7人	8人	5人	4人	6人	7人	7人	5人	5人	5人

問9 以下のような点について、どう考えていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
プログラムに参加する教員の間でプログラムについての理解が共有されている	186人 (21.5%)	464人 (53.5%)	156人 (18%)	61人 (7%)
指導教員や研究室スタッフを含め、プログラムに参加していない教員等はプログラムの目的を理解し、あなたがプログラムに参加することに協力的である	288人 (33.2%)	427人 (49.3%)	116人 (13.4%)	36人 (4.2%)
学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す可能性が大きい	271人 (31.3%)	445人 (51.3%)	119人 (13.7%)	32人 (3.7%)

ご自身の今後の希望や本プログラムによる成果などについてうかがいます

問10 修了後の進路についてどのような希望をもっていますか。

	大学院入学時の希望 (いくつでも○)	現在の希望 (いくつでも○)	既に進路が 決定している (1つだけ○)
民間企業に就職 (研究者以外として)	211人 (24.3%)	258人 (29.8%)	21人 (14.4%)
民間企業に就職 (研究者として)	464人 (53.5%)	519人 (59.9%)	34人 (23.3%)
官公庁に就職	127人 (14.6%)	195人 (22.5%)	13人 (8.9%)
国際機関に就職	131人 (15.1%)	219人 (25.3%)	9人 (6.2%)
NPO・NGO等 (公共的サービスの提供主体) に 就職	52人 (6%)	82人 (9.5%)	4人 (2.7%)
医師、弁護士などの専門職	67人 (7.7%)	56人 (6.5%)	9人 (6.2%)
起業	78人 (9%)	110人 (12.7%)	5人 (3.4%)
大学 (海外を含む) に研究者として就職	533人 (61.5%)	526人 (60.7%)	37人 (25.3%)
その他公的研究機関 (海外を含む) に研究者として 就職	389人 (44.9%)	434人 (50.1%)	9人 (6.2%)
その他 (具体的に :)	12人 (1.4%)	12人 (1.4%)	5人 (3.4%)
決めていない	36人 (4.2%)	26人 (3%)	

問1 1 プログラムへの参加によって、あなたの人生観、職業観、世界観、国際意識などがどのように変わったかを自由に記入してください。

--

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。（ はい ・ いいえ ）

問1 2 産学官民（※）にわたりグローバルに活躍するリーダーとなるために、所属するプログラムにおいてあなたが主体的に行った活動、及びその成果について自由にアピールしてください。
（※「民」とは、NGO、NPOなど公共的サービスの提供主体を指します。）

--

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。（ はい ・ いいえ ）

全般的なご意見をうかがいます

問13 あなたが参加するプログラムについて、あなたの将来に向けてこのプログラムがどう役立っているか、又はどのように改善してほしいかも含め、感想、ご意見を自由に記入してください。

(例)

- ・メンターやメンターの人的ネットワークを通じた様々な交流から刺激を受けている
- ・プログラムと所属専攻それぞれの履修要件を満たす必要があるためコースワークの負担が大きい など

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 (はい ・ いいえ)

調査項目はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

博士課程教育リーディングプログラム

担当者アンケート調査

- この調査は博士課程教育リーディングプログラム（注）に採択されたプログラムを担当しておられる大学院教員の方、および学外から協力いただいている方にご意見をうかがうものです。各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省の施策の検討の参考とします。
- いただいた回答はすべて統計的に処理され、個人についての情報が他の目的で使われることはありません。調査結果については、プログラムの改善に資するため、記入した個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合などの処理を行った上で、当該大学に対し評価終了後に情報提供を行うとともに、集計結果を個人等が特定されない範囲で公表することもあります。
- この調査の実施は、各大学の協力のもとに、文部科学省の指導の下、独立行政法人日本学術振興会が Transbird 株式会社に委託して行います。

注 <博士課程教育リーディングプログラムとは>

優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院（リーディング大学院）の形成を推進する事業です。

- 回答は URL を通じてください → <http://www.tb-q.com/jsps/worksheet.php>
- **5月28日まで**にご回答ください
- 本アンケートに関するお問い合わせ先
Transbird 株式会社（トランスバード株式会社）担当者：太田・大沼
Email：jsps-q@transbird.com

担当されているプログラムと、御自身についてうかがいます

問1 担当している大学・プログラム名。下のボタンをクリックして、該当するものをクリックしてください。

全体

問2 プログラムとの関係（それぞれ一つを選択）

プログラムに参加した年 【複数選択】	1. 2011（平成23）年度	2. 2012（平成24）年度	3. 2013（平成25）年度	4. 2014（平成26）年度
	148人（69.8%）	153人（72.2%）	174人（82.1%）	164人（77.4%）

エフォート申請書に記載されたもの 【単一選択】	1. 1割未満	2. 1割以上2割未満	3. 2割以上3割未満	4. 3割以上4割未満	5. 4割以上5割未満
	96人（45.3%）	77人（36.3%）	22人（10.4%）	6人（2.8%）	2人（0.9%）
	6. 5割以上6割未満	7. 6割以上7割未満	8. 7割以上8割未満	9. 8割以上9割未満	10. 9割以上
	0人（0%）	0人（0%）	3人（1.4%）	2人（0.9%）	4人（1.9%）

エフォート平成25年度の実績 【単一選択】	1. 1割未満	2. 1割以上2割未満	3. 2割以上3割未満	4. 3割以上4割未満	5. 4割以上5割未満
	101人（47.6%）	73人（34.4%）	20人（9.4%）	5人（2.4%）	3人（1.4%）
	6. 5割以上6割未満	7. 6割以上7割未満	8. 7割以上8割未満	9. 8割以上9割未満	10. 9割以上
	1人（0.5%）	0人（0%）	4人（1.9%）	1人（0.5%）	4人（1.9%）

本プログラムの学生に直接に接する頻度 【単一選択】	1. 日常的	2. 週に1回程度	3. 月に1～2回程度	4. 年に1回～数回	5. 直接には接しない
	72人（34%）	24人（11.3%）	33人（15.6%）	67人（31.6%）	16人（7.5%）

所属（本務） 【単一選択】	1. 当該大学院・参画 研究科・専攻等	2. 当該大学院他専攻	3. 他大学	4. 研究機関	5. 民間企業
	153人（72.2%）	27人（12.7%）	6人（2.8%）	12人（5.7%）	10人（4.7%）
	6. 政府・自治体	7. 国際機関	8. その他		
	0人（0%）	1人（0.5%）	3人（1.4%）		

8. その他（自由記述）

問3 このプログラムではどのようなことを担当されていますか（あてはまる項目すべてをクリック）

1	単独で講義を担当	71人（33.5%）	6	留学プログラム	30人（14.2%）
2	単独で演習を担当	22人（10.4%）	7	学生募集・入学者選抜	96人（45.3%）
3	協同講義、演習への参加	100人（47.2%）	8	就職支援	18人（8.5%）
4	個別学生の研究指導	110人（51.9%）	9	プログラムの企画、カリキュラムの作成	84人（39.6%）
5	学生のメンター	58人（27.4%）	10	インターンシップ	37人（17.5%）

11. その他（自由記述） 40人（18.9%）

問4 年齢、性別についてご記入ください。

年齢	1. 20・30歳代	2. 40歳代	3. 50歳代	4. 60歳代以上
	7人（3.3%）	57人（26.9%）	116人（54.7%）	32人（15.1%）

性別	1. 女性	2. 男性
	14人（6.6%）	198人（93.4%）

プログラムの実施状況について感想をうかがいます

問5 このプログラムで、先生は下のような指導を行われていますか。また、行っている場合はそれは有効ですか。(それぞれ該当する回答をクリック)

	行っている			有効か			
	よく行っている	行っている	行っていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
指導学生以外の学生への指導	30人 (14.2%)	96人 (45.3%)	86人 (40.6%)	59人 (46.8%)	65人 (51.6%)	2人 (1.6%)	0人 (0%)
主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等	23人 (10.8%)	109人 (51.4%)	80人 (37.7%)	63人 (47.7%)	65人 (49.2%)	4人 (3%)	0人 (0%)
研究室ローテーションの受け入れ ※名称は問わない	20人 (9.4%)	49人 (23.1%)	143人 (67.5%)	33人 (47.8%)	33人 (47.8%)	2人 (2.9%)	1人 (1.4%)
プロジェクト形式による授業や課題	23人 (10.8%)	55人 (25.9%)	134人 (63.2%)	47人 (60.3%)	30人 (38.5%)	1人 (1.3%)	0人 (0%)
メンター等としての授業外のサポート	27人 (12.7%)	70人 (33%)	115人 (54.2%)	50人 (51.5%)	46人 (47.4%)	1人 (1%)	0人 (0%)

問6 このプログラムで、下のようなことは実施、あるいは整備されていますか。また1～3を選択した場合、それは有効に機能していますか。(それぞれ該当する回答をクリック)

	整備されているか				有効か			
	十分にされている	ある程度されている	不十分	分からない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
企業、政府機関など学外者からの指導	92人 (43.4%)	86人 (40.6%)	8人 (3.8%)	26人 (12.3%)	105人 (56.5%)	73人 (39.2%)	7人 (3.8%)	1人 (0.5%)
産業界、官界、NPO、国際機関など、 教育研究機関以外へのキャリアパス具 体化のための情報提供 例：産学共同研究、産業界等の講師を招 いたセミナー等	93人 (43.9%)	84人 (39.6%)	7人 (3.3%)	28人 (13.2%)	100人 (54.3%)	77人 (41.8%)	5人 (2.7%)	2人 (1.1%)
奨励金等大学からの金銭的支援	136人 (64.2%)	46人 (21.7%)	7人 (3.3%)	23人 (10.8%)	139人 (73.5%)	43人 (22.8%)	7人 (3.7%)	0人 (0%)
異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 例：学生の交流スペース、合同のセミナー等	117人 (55.2%)	73人 (34.4%)	9人 (4.2%)	13人 (6.1%)	130人 (65.3%)	58人 (29.1%)	9人 (4.5%)	2人 (1%)
外国人、職業人など、通常の大学院では 接触しにくい人との交流の機会	121人 (57.1%)	71人 (33.5%)	7人 (3.3%)	13人 (6.1%)	134人 (67.3%)	59人 (29.6%)	4人 (2%)	2人 (1%)
国内の民間企業又は官庁、国際機関等へ のインターンシップ（1月以上）	74人 (34.9%)	83人 (39.2%)	18人 (8.5%)	37人 (17.5%)	98人 (56%)	66人 (37.7%)	11人 (6.3%)	0人 (0%)
海外の民間企業又は官庁、国際機関等へ のインターンシップ（1月以上）	89人 (42%)	73人 (34.4%)	14人 (6.6%)	36人 (17%)	102人 (58%)	67人 (38.1%)	6人 (3.4%)	1人 (0.6%)
本プログラムの中での留学	80人 (37.7%)	77人 (36.3%)	13人 (6.1%)	42人 (19.8%)	104人 (61.2%)	58人 (34.1%)	7人 (4.1%)	1人 (0.6%)

問7 このプログラムは、学生に以下のような資質を身につけさせるのに、どの程度有効ですか。

	非常に有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
高度な専門的知識・研究能力	95人 (44.8%)	96人 (45.3%)	16人 (7.5%)	5人 (2.4%)
高い国際性	144人 (67.9%)	61人 (28.8%)	7人 (3.3%)	0人 (0%)
専門以外の分野の幅広い知識	129人 (60.8%)	71人 (33.5%)	9人 (4.2%)	3人 (1.4%)
物事を俯瞰し本質を見抜く力	102人 (48.1%)	93人 (43.9%)	14人 (6.6%)	3人 (1.4%)
自ら課題を発見し解決に挑む力	113人 (53.3%)	87人 (41%)	10人 (4.7%)	2人 (0.9%)
独創的な能力	76人 (35.8%)	115人 (54.2%)	17人 (8%)	4人 (1.9%)
他者と協働する力	125人 (59%)	81人 (38.2%)	6人 (2.8%)	0人 (0%)
その他（具体的に： ）	25人 (86.2%)	2人 (6.9%)	0人 (0%)	2人 (6.9%)

問8 運営・管理の面で、以下の点についてどう考えられていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
産業界、行政機関、NPO等によるプログラムへの参画と就職先の提供が行われている	44人 (20.8%)	136人 (64.2%)	30人 (14.2%)	2人 (0.9%)
学長のリーダーシップが発揮されている	52人 (24.5%)	107人 (50.5%)	43人 (20.3%)	10人 (4.7%)
コストを意識した運営がなされている	55人 (25.9%)	129人 (60.8%)	25人 (11.8%)	3人 (1.4%)
学内外へのプログラム内容や成果の広報が積極的に行われている	91人 (42.9%)	109人 (51.4%)	11人 (5.2%)	1人 (0.5%)

問9 以下の点について、どう考えられていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
プログラム担当者間でのプログラムについての理解の共有ができています	78人 (36.8%)	111人 (52.4%)	19人 (9%)	4人 (1.9%)
プログラム担当者以外の教員の理解があり、協力的である	31人 (14.6%)	138人 (65.1%)	39人 (18.4%)	4人 (1.9%)
大学の執行部が、プログラムの目的を理解し、協力的である	80人 (37.7%)	118人 (55.7%)	11人 (5.2%)	3人 (1.4%)
優秀な学生が多数入学している	99人 (46.7%)	90人 (42.5%)	20人 (9.4%)	3人 (1.4%)
今後優秀な学生をより多く獲得できる	77人 (36.3%)	98人 (46.2%)	35人 (16.5%)	2人 (0.9%)
学生はプログラムの意図を良く理解している	84人 (39.6%)	114人 (53.8%)	14人 (6.6%)	0人 (0%)
学生にとって、将来の進路が明確になっている	39人 (18.4%)	124人 (58.5%)	47人 (22.2%)	2人 (0.9%)
学術研究だけでなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作りだす見込みがある	88人 (41.5%)	103人 (48.6%)	18人 (8.5%)	3人 (1.4%)
このプログラムによって、大学院制度の改善に大きな示唆が得られている	61人 (28.8%)	110人 (51.9%)	37人 (17.5%)	4人 (1.9%)
このプログラムが補助期間終了後も大学の独自財源により持続的に運営される見通しがある	25人 (11.8%)	105人 (49.5%)	71人 (33.5%)	11人 (5.2%)

プログラムの改善のための方策についてうかがいます

問10-1 このプログラムにおいてあなたが担当する指導・支援方法の改善のため、学生等による評価やアンケート(紙面やパソコン上のデータとして記録・保存をしているもの)を行っていますか。下記から一つ選択してください。

1	担当する全ての役割等において実施している	33人 (15.6%)
2	担当する一部の役割等において実施している	89人 (42%)
3	実施していない	90人 (42.5%)

【1または2と回答した方のみお答えください】

問10-2 上記評価やアンケートの結果を踏まえ、具体的に改善を図った内容があれば、その内容についてお答えください。

全般的なご意見をうかがいます

問 1 1 この質問票でお訪ねした点、あるいは、それ以外にも、このプログラムについてお考えがあれば、ご意見を自由にお書きください

調査項目はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。